

巻頭言
Greeting

×

三浦 譲

Yuzuru Miura
聖書宣教会 教師
(横浜山手キリスト教会牧師)

Profile

1961年徳島県生まれ。聖書神学舎卒業後、徳島県鳴門で12年間牧会。2006年から日本長老教会横浜山手キリスト教会牧師。2014年から聖書神学舎教師(新約学)。



「耐え忍びなさい」 ヤコブの手紙 5:7

「ですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は大地の貴重な実りを、初めの雨や後の雨が降るまで耐え忍んで待っています。」(ヤコブの手紙 5章 7節)。

このみことばを今年の夏期研修講座の早天祈祷会で開かせていただきました。最近、特に思わされていることです。再度お分ちします。

「耐え忍びなさい」と語られ、その際に「農夫を見なさい」と言われます。パレスチナにおける農夫は、収穫期の初めと終わりに必要な雨を耐え忍んで待ちました。ここに登場する例話が農夫であることに、私は慰めを得ます。なぜなら、農夫は自然を相手にするからです。農夫は、すべては自分の計画通りに行くわけではなく、何が起こるかかわからない世界に生きています。そうすると、我々牧師や、牧師たちが仕えている教会も似ている点があるのではと思うのです。

今、とても便利でスピーディーな時代になりました。でもそれは近道を求める、「待たない」時代とも言えます。ところが教会の中を見てみると、実に「待たされる」ことだらけです。各個人が、各家族が、そして教会が抱える幾多の課題、問題に対して、重い祈りが長きにわたって積み重ねられています。しかし、それが教会なのでしょう。時代がどんなに便利になりスピーディーになろうとも、教会が扱うところの問題が人間の本質にかかわるところであって、機械的な答えが出るところではないからです。

しかしそのような時に、現代という時代の影響を受けて、我々の牧会が手っ取り早さを求め、知

らず知らずのうちに「待たない」牧会になってしまっていないかと反省させられます。そのような意味においては、私たちも一つの教会に遣わされて、短いスパンではなくて、「与えられた教会の人たちとこの先も一緒に生きていくのだ」といった時間の感覚も必要かもしれません。いや、牧師として生きるということ自体、長いスパンで考えなくてはならないのでしょうか。少し学んだからと言って、すぐに説教ができるようになるということでもないのかもしれませんが。日頃の忍耐の牧会のわざに裏打ちされるものなのでしょう。

今の聖書神学舎内においても重い祈りが長きにわたって積み重ねられているという現状があります。課題がわかっている、なかなかその祈りの答えが見つからないということもあります。また、最近の日本の福音主義の世界においても、聖書神学舎が大切にすることがなかなか理解されないということがあられるかもしれません。

この「耐え忍ぶ」という言葉は「寛容」とも訳されます。「寛容」は私たちの神の性質(「豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば」ローマ 9:22)でもありました。各自、散らされたその場における闘いがあり、それぞれ「耐え忍ぶ」ことの連続であるかもしれません。けれども、聖書のみことばに、また神様ご自身に励まされながら、お互いに置かれた所々でその闘いを続けていく者たちでありたいと思います。

No.178 Topics

- p03 学びの窓
- p04 夏期研修講座の報告
- p05 教会音楽夏期講習会に参加して
- p06、07 キャラバン伝道報告

伊藤 暢人

Nobuhito Ito

聖書神学舎 教務主任

御名が聖なるものとされますように。聖書神学舎のためにいつもお祈りくださり、まことに有難うございます。主の恵みと、主にある諸教会・兄弟姉妹の祈りに支えられ、学舎の歩みと働きが守られていることを感謝します。

学舎近況

5月に行われた神学校親善ソフトボール大会では14年ぶりの単独優勝。長い低迷期を経て、花開きました。来年の「連覇」に期待したいと思います。

今年も夏には夏期研修講座とキャラバン伝道が行われました。詳細はそれぞれの紙面で報告させていただきますが、夏期研修講座は学びとともに、同労者の良い交わりの場になっていることも感謝です。今年新たに参加してくださった方々との出会いがあり、また同じ時期に学び、今はそれぞれの宣教の現場に遣わされている友と近況を分かち合いました。今年特筆すべきは在日インドネシア人教会の牧師8名(通訳含む)が参加してくださったことでした。感謝。

キャラバン伝道は、全5チームで奉仕させていただきました。受け入れてくださった教会の皆様へ、心から感謝いたします。伝道実習の場として、貴重な経験と交わりをいただきました。それは卒業後も生かされていくものです。背後にあって祈ってくださった方々にも感謝します。

教会音楽夏期講習会は、この原稿執筆時点ではまだこれからですが、主の臨在と祝福のうちにられることを信じます。

秋に向かって

皆様のお手元にこの通信が届く頃には、もう前期の授業が再開しています。10月11日の前期

終了まですべての学びが守られますように、お祈りください。秋期調整期間には1泊2日のリトリートがあり、10月24日から後期がスタートします。オープンデイ、祈りの日、賛美礼拝と諸行事が続きます。卒業予定者にとっては卒論・卒研の学びが本格化する時期です。必要な知恵と忍耐のすべてが与えられて、研修生一人ひとりがみことばの奉仕者として育てられていきますように、どうぞお祈りください。

「慰めよ、慰めよ、わたしの民を」

イザヤ書40章冒頭のこの書き出しは有名ですが、イザヤ書において「慰め」ということばは、「民」と共に出てくることが多いことを教えられました。40章1節のほかに、49章13節には「主がご自分の民を慰め」とあり、52章9節には「主がその民を慰め」とあります。51章3節には「主はシオンを慰め」とあり、直後の4節に「わたしの民よ」と呼びかけがあります(ほかに、51章12節と16節、51章19節と22節の例もあります)。主の民であることと主の慰めは密接な関係にあるようです。契約の愛のゆえに、主の民が主を捨てても、主はご自分の民を捨て去らないということでしょうか。否、そもそも「わたしの民」を呼びかけてくださること自体が慰めです。

そして、慰め主は主ご自身です。「わたし、わたしこそ、あなたがたを慰める者」(51:12)と主は親しく、力強く宣言してくださいます。主の不変のご愛に拠り頼みつつ、学び舎の働きを続けていきます。どうぞお祈りください。主の民である皆様のご支援に深謝して。

「救い主」
～新約聖書とその周辺～

赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

新約聖書の sōtēr は一様に「救い主」と訳され、その多くはイエス・キリストを指しています。結果、聖書に関心を集中する読者は、sōtēr を専らキリストを指す特別な語と考えるかもしれません。実際は一般的な語で、広い意味で救済者に言及する語です。神々や医者や指導者など、指示対象は多様です。少し整理しておきましょう。

sōtēr の背後にあるのは sōzō という動詞です。これが「救う」のほか、困難から助け出す、病を癒すなどの意味で用いられることは良く紹介されます。その行為者が sōtēr ですから、誰が、何から救うのかに応じて救出者、解放者、治療者、守護者など多様な訳になります。聖書の周辺世界では、こうした広い意味で日常的に用いられた語でした。例えば、ギリシア神話のゼウスやポセイドンが、都市国家を危険から守り、市民を保護する sōtēr として言及されます。あるいは医者がそう呼ばれるのは普通のこととして、誰かの大きな災禍を免れさせれば、一市民もその相手にとっては sōtēr です。王や政治家が sōtēr と呼ばれることもあります。エジプトのプトレマイオス1世、マケドニアのフィリッポス2世、ローマの皇帝たちなどなど。皇帝を sōtēr と呼ぶのは現世的な保護という面から見れば正当なことで、そこには神格化の兆しを伴いませんでした。しかし、後には、アウグストゥスの治世から皇帝礼拝の片鱗が見られ始め、カリグラ(在位 37~41 年)は自分を sōtēr である神と呼ばせて礼拝を要求したと伝えられ、ネロ(54~68)においても同様の様相でした。

かくも広く用いられた語を、新約聖書が「救い主」に限定して用いるのは意図的なものでしょう。用例が sōzō の 106 回に対して 24 回と少数であることも、むやみに用いて、周辺世界の sōtēr と混同されないように、という配慮かも知れません。

パウロの使う「救い主」は 12 回に過ぎません。その 10 回が牧会書簡に集中し、内 6 回は第一テモテの 3 回(1:1, 2:3, 4:10)ともがそうであるように、神を救い主と呼んでいます。テモテ書の舞台、エペソでは女神アルテミスが守護者 sōtēr と呼ばれ、信頼され、礼拝されていました。ローマ皇帝が忠誠と賛美を要求した時代です。教会の直面した違った教え、虚しい議論の中に sōtēr を巡る混乱があっても不思議ではありません。パウロは、他の sōtēr でなく、まことの救い主であるまことの神にだけ賛美と礼拝をささげよ、と教会を諭すのです。

現代にも様々な sōtēr が存在します。異教の神々や異端の惑わしがあり、組織や国家の暴走があります。前世紀の国家神道体制は国内外で sōtēr を自称したと言えます。今も「sōtēr」が溢れるこの世界に、教会はまことの sōtēr を宣べ伝えましょう。

このように、慣れ親しんだ単語一つでも、語意や背景を含めて理解することは、重要で有益なことなのです。

田村 将

Masashi Tamura
聖書神学舎 教師

今年の夏期研修講座は米国ホウィートン大学の旧約学名誉教授であるダニエル・ブロック師をお招きして開催されました。今回はご専門のエゼキエル書ではなく、同書とともに長年に亘って取り組んで来られた申命記から「モーセの福音に聞く」と題し、五つのレッスンに分けてご講演くださいました。

まず始めのレッスン1では、英訳聖書で the law と訳される tōrah というヘブル語について考えました。それは人を縛る「律法 nomos」的な戒めであるよりも、「(み)おしえ」(新改訳聖書ではすでにそのように訳しておりますが)と言うにふさわしいものであることが述べられました。このことは、特に新約聖書において「律法」が「信仰」と対比されて語られているような箇所解釈において大切な理解になると指摘されました。また、聖書のテキストを、それが書かれた当時の文脈に即して考え、そこから現代にも尚有効な真理を汲み取ること(適用すること)の重要性が確認されました。

次のレッスン2は短い单元でしたが、約束の地に入ることが許されなかった民の指導者モーセについて焦点が当てられました。神と民の間に立つモーセの姿を通して、牧会者であり教師である者の責任と資質について考え、とりなして祈ることの大切さにも触れられました。

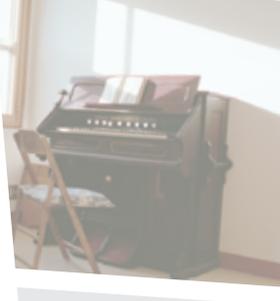
続いてレッスン3では tōrah を持つことの特権とその素晴らしさについて考えました。救い主なる神とそのみおしえを知っているということは、他の諸国民の間には決して見られないことであり、神の民だけに与えられた恵みであることが確認されました。そのような主のみおしえを持ち、

いのちと死に関する深遠な知識を持っていることは知恵 ḥokmā]であると語られました。また、私たちの救い主であられる神は、救いの条件としてではなく、既に成就した救いの結果として私たちに tōrah を与えてくださったということが示されました。

続くレッスン4ではあまり多くの時間を割くことができず、内容を概観するに留まりましたが、神による救いの恵みとみおしえの授与(出エジプトとシナイ山での出来事)、神の民への従順の要請、という一連の流れは、キリストの救いを知る今日の信仰者にも共通するものであることが語られました。救い主なるイエス・キリストにふさわしく歩む要請を、私たちも受けているのです。

最後のレッスン5は、これまでの講義をまとめる役割をも担う総括的な内容でした。その中心は、「主(YHWH)は唯一である(申6:4)」点に集約されると語られました。そこから「心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして(申6:5)」神である主を愛すべきことが導かれるのです。

以上、三日間に亘って講義を導いてくださったブロック師ですが、熱心に語られるその姿はまさに「神を恐れ、みおしえを喜ぶ」情熱的な教師そのものでした。その姿勢からは牧会者のような一面さえも垣間見られたように思います。貴重なご講演に心から感謝しつつ、今夏の研修講座のご報告とさせていただきます。



第35回 教会音楽夏期講習会 ご報告

赤坂 恵美

Emi Akasaka

聖書神学舎 講師

35名の定員一杯の受講生と教会音楽関係の講師6名が、本科教師によるみことばの学びを軸にして組まれたプログラムに、ともに豊かに学ぶときとされました。9名の初参加者が与えられた一方で、参加十数回の方もあり、学びへの期待と熱意を与えてくださった主に感謝します。

一同が主の御前に出て、みことばに耳を傾けた開会礼拝に始まり、礼拝について、聖書から、その役割が「(みことばの)教えの場」との理解へと導かれた講義Ⅰ。「聖書論～神のことばである聖書～」と題された講義Ⅱ・教理の学び(6年サイクルの第1回目)。主への“賛美”や“感謝”と重なる

概念である“告白”の本質が、神に対する正直さであり、混じり気のない真実さをもって捧げられるべきということ、詩篇32篇を通して学んだ講義Ⅳ。そして、みことばと賛美による閉会礼拝。これらの豊かな聖書の学びと礼拝は、教会音楽に関する「講義と演習」や、分科会での個人レッスン、課題合唱曲への全員の取り組みにおいても、一貫してその土台となるべきものでした。

お一人おひとりが、学びの実を持ち帰ってお返しすることで、主の教会の礼拝がますます豊かにされますよう祈っています。

主の恵みに抛り頼んで

市川 綾子

Ayako Ichikawa

湘南ライフタウンキリスト教会

「私は今までどれだけみことばと真摯に向き合い、奏楽奉仕を担ってきただろうか。心のどこかで人からの称賛を求めたり、うまく弾きたいと誘惑されはしなかったか。自己満足に終わる礼拝・賛美を捧げてはいなかっただろうか。」

語られたみことばや講義を通して、信仰者としての自らの歩みを直視せねばならない、肉体・霊的にも厳しい3日間でした。

2日目の学びを終えホテルに戻ると、夫から義母の訃報が届きました。闘病中だったとは言え、余りに突然の別れに悲しみと自分の非力さ、罪深さが私の上に重くのしかかりました。

3日目の講義と閉会礼拝で扱われたみことば・

詩篇32篇5節のダビデの罪の告白は、まさに私自身の罪の告白そのものでした。それでもなお、罪深い私が奏楽をもって主にお仕えすることが許されている憐れみと恵みを覚える、生涯忘れ得ぬ3日間にもなりました。

最後に、忍耐をもって指導下さった先生方、ご奉仕下さったスタッフの皆さま、共に励まし合い学んだ兄弟、祈りをもって送り出してくれた教会、留守を守ってくれた家族、全てを良きにして下さる主に感謝申し上げます。

05 キャラバン伝道報告 Caravan Reports

そこでイエスは弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主にご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」(マタイ 9:37,38)

イエス様がすべての町や村を歩かれ、宣教されたように、私たちも各地に置かれている教会の働きに加えていただきたいと願って準備を進めてまいりました。この夏も、それぞれのチームがその地で熱心に働かれる主の御業を見せていただく恵みに与りました。ただただ、主に感謝いたします。すべての栄光が主に帰されますように。

吉村 直人

Naoto Yoshimura

2019年度 キャラバン実行委員長



4 福音交友会 貝塚聖書教会 (大阪府)

7月16日(火)–22日(月) 谷口真樹、大橋歩、鈴木直基

私たちは貝塚聖書教会の伝道所の阪南バイブルチャペルを拠点に活動しました。この伝道所は今年度会堂が与えられ歩み始めたばかりです。

奉仕は主に、伝道所のトラクト配布、集会の企画運営、主日礼拝・諸集会での説教でした。トラクト配布では土砂降りの日もありましたが、教会の方々と共に、当初の目標を超える部数を配ることができました。子ども集会には地域の子どもたちが30名ほど集い、うちわづくり、スイカ割りなどを楽しみました。子どもたちが聖書の話に熱心に耳を傾ける姿に励まされました。

今回のキャラバンでは教会の方々が暖かく迎えてくださり、多くの幸いな交わりが与えられました。交わりの中で、たくさんのお証しをお聞きし、ともに主の恵みの素晴らしさを賛美するキャラバンとなりました。主に感謝します。



5 日本長老教会 池戸キリスト教会 (香川県)

7月20日(土)–29日(月) 高石啓明、杉本信、木津健博

私たちは教会学校、祈祷会の奨励、お泊りキャンプのプログラム、教会の畑仕事のお手伝い等の奉仕をさせていただきました。10日間、2度の主日にわたって教会の皆様との交わりが与えられ、教会の特徴や地域性について小高牧師からお話を聞かせていただくこともできました。

教会でご奉仕されるだけでなく、世に出て行き主の収穫のために祈り、働いておられる教会員の方々と共に祈る、そのような幸いな機会を、神様はふとしたきっかけから多く与えて下さいました。フルタイムの教職者が主の働き手であることに間違いはないと思いますが、働き手とは教職者だけではないことを強く思われました。このキャラバン伝道を通して、神様は私たちが主の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈らなければならないことを教えて下さいました。



1 保守バプテスト同盟 水沢聖書バプテスト教会 (岩手県)

7月22日(月)-30日(火) 吉田知基、國分力、本多卓也

開拓から50年以上が経つ歴史ある教会で、牧会者として立てられている南(ナム)先生は4代目の牧師先生です。初日に先生は「自分はこの教会に何を残せるか」を祈りながら、教会に仕えておられることを分かち合って下さり、私たちも限られた時間の中で何ができるのか主にゆだね、祈りつつ、奉仕させていただきました。

私たちの主な活動はキルトサークルや定例集会、礼拝での証し、教会周辺や開拓を祈っている地域でのトラクト配布、さらに子どもお楽しみ会や子どもキャンプなどで奉仕させていただきました。お楽しみ会では教会に初めて来る子どももいました。

このキャラバンを通じて、南先生ご夫妻の地方教会における牧会姿勢から学び、また教会に集っておられる兄弟姉妹や子どもたちとの主にある交わりを通して、多くの恵みと励ましを受け、感謝でした。



2 日本福音自由教会協議会 ^{かしぼ} グレース宣教会 ^{にじょう} 香芝チャペル・二上チャペル (奈良県)

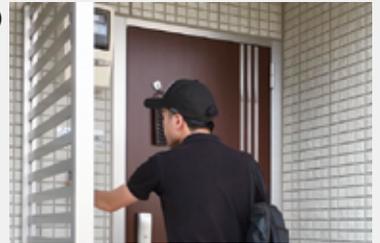
7月29日(月)-8月5日(月) 吉村直人、李相扶、山下亮

グレース宣教会には現在、21のチャペルがありますが私たちはその中でも香芝、二上の2つのチャペルを中心に携わらせていただきました。

訪問伝道(写真上)、路傍伝道、トラクト配布などを通して、教会はいかにして地域の人々に福音を届けていくべきかを考えさせられました。その地を祈りつつ一步一步踏みしめていく中で、主がこの地の宣教のために熱心に働いておられることを感じました。

また、二上チャペルでは週一回学童のための働きが持たれており、この夏に一泊キャンプが開かれました。40名ほどの地域の子どもの参加し、その多くが信仰告白へと導かれました。主がこの地で働かれていることを目の当たりにさせていただきました。

聖書のみことばに従い、生きていく教会のあり方を経験的に教えていただいたキャラバンでした。主の恵みに感謝いたします。



3 日本バプテスト宣教師団 ^{こうみょう} 光明キリスト教会 (大阪府)

7月17日(水)-22日(月) 小山稔、岡村建、石川礼

ユーイング、リード両宣教師のユーモアと配慮と自由に満ちたご指導の下でのキャラバンでした。聖書研究：「1ペテロ4:12-19:ユーイング師：キリストの苦しみ」「IIコリント9章：リード師：ささげる喜び」、英会話聖研：「ルカ18:18-31：リード師：富める役人」から、聖書に向き合い、会話を助け導く姿勢も学びました。ファミリーフェスタは腹話術(竹井先生とゴーちゃん)と英語で遊ぼう(リード師)ほか屋台(玉入れ、輪投げ等々)も盛り上がり、楽しい時でした。開拓10年のアットホームな教会でした。礼拝での特別賛美、証し(石川、小山)、説教「今日、救いがこの家に」ルカ19:1-10(岡村)。午後は2か国語礼拝。宣教師宅と教会の方の家での宿泊。みことばに囲まれ最善を求める姿勢に教え励まされ、深く学ぶ時でした。感謝



○ 図書館から

鞭木 由行

Yoshiyuki Muchiki

聖書宣教会 研究図書主任・図書館長

長い間図書館の館長として奉仕して下さった津村先生が定年で退かれ、この四月から私が図書館の館長となりました。とはいえ、これまで担当していた研修生活部も半分受け持ちますので、兼任と呼ぶべきかもしれません。聖書宣教会では、これまでも図書館の充実に務めてきましたが、これまでの JBS 図書館の特徴を引き継ぎながら、今後も神学校のあるべき図書館の姿を追求していきたいと思っています。新米の館長には図書館の専門知識があるわけではなく、心細い限りですが、幸い電子関係の文献は今後も桑原先生が、そして実務は中川姉が担当して下さいます。館長としての新しい仕事のひとつに新規購入図書や寄贈された図書の分類などがありますが、これも従来の方針をしっかりと踏襲しなければ、図書がバラバラになってしまうので、細心の注意が必要です。また新しい図書の購入決定も、これまで知らない世界でした。そのような中で、最近購入した一冊の本を紹介して、新任の挨拶を閉じさせていただきたいと思います。それは、私にとっては恩師である K. A. Kitchen と私の友人である Paul Lawrence (彼はウイクリフの宣教師でもある) の二人が編集し出版した Treaty, Law and Covenant in the Ancient Near East (Harrassowitz, 2012) です。大判の三巻本で、第一巻はテキスト本文です。左ページに原文、右ページには対応する英訳文が載せられています。第二巻はテキスト本文の解説、第三巻にはテキスト全体についての歴史的な概観が載せられています。これによって、従来触れることができなかった古代オリエントの膨大な契約文書全体に直接触れることができます。ご利用下さい。

○ 聖書宣教会からのお知らせ Information

○ 「オープンデイ」のお知らせ 11月2日(土)

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会としては是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。(内容については、当日変更となる場合もあります。)

○ 「賛美礼拝」のお知らせ 11月30日(土) 14:30

「叫び」

聖書：詩篇 88篇

説教：松本 任弘(聖書神学舎 名誉教授)

曲目：

- ・オルガン
 - ・トッカータニ短調(D.ブクステフーデ BuxWV155)
 - ・我 主 イエス・キリストに呼ばれる(J.S.バッハ BWV639)
- ・合唱
 - ・シオンは言えり「主はわれを捨て」イザヤ49章14～16節(ヨハン ヘルマン シャイン)
 - ・主よ 私の叫びが御前に近づきますように。詩篇119篇169～171節(ヨハン ヘルマン シャイン)
 - ・我 主イエス・キリストに呼ばれる カンタータ177番コラル(J.S.バッハ)
- ・新作 石川由紀子 他

	I～II 8:20～9:55	10:00～ 10:30	III～IV 10:40～12:15	12:15 ～
1年	旧約各書I(1限) (伊藤 暢人)		旧約通論 (田村 将)	簡単な 昼食の 提供が あります (無料)
2年	ギリシャ語(中級) (川原) (横山昌英)	チャペル (赤坂 泉)	組織神学IV (キリスト論) (赤坂 泉)	
3年	旧約釈義I (鞭木 由行)		組織神学VII (終末論) (横山昌英)	
4年	組織神学VI (教会論) (宗形 和平)		旧約研究IV (津村俊夫)	
	新約研究II (使徒の働き) (三浦 謙)		教会音楽 特別講座 (学年によらず)	